



# 一麦だより

No. 7

2026.11.4

## 秋の恵みを子どもたちに

秋は木々の葉が色づき、実りに感謝し、喜んで味わう季節です。しかし、最近では異常気象の影響もあってか、花が咲いたり実がなる季節が変わってきたり、海水温が上昇し、漁場や獲れる魚の種類や時期にも変化が生じているという話も聞きます。最近のクマが人に近い場所に出没するニュースもこうした環境の変化から来るものかもしれません。この気候の変化にアパレルや食品業界が戦略を見直す動きもあるようです。日本は四季の国として知られ、巡る季節それぞれに自然豊かな情景が見られていましたが、子どもたちにはどのように映っているのでしょうか。利便性や快適性を求めている現代の私たちですが、本来あるべき自然の姿を壊しているのかもしれません。子どもは、自然の中からたくさんのごんごんを発見し、面白がって探求していきます。人が作るができない美しさや不思議さがあることや、目には見えないものの存在を感じることが出来ます。やや短くなったと感じる秋の日々ですが、神さまが創ってくださった自然を敬い、豊かな恵みに感謝する心を失わず、身近な自然を味わって神さまの恵みをいただきたいと思います。

今年8月刊行された「兵庫の植物」（兵庫県植物誌研究会発行）第35号に一麦保育園第3代園長植生操先生が採収し標本にした植物のことが掲載されました。植生先生は1933年（昭和8年）に創立間もない一麦保育園の主任に就任し、子どもたちと共に植物や虫を採集しながら保育を行い、その傍ら、植物のことを専門の先生方に学びながら採収した植物を標本として残していました。先生が召された後、残されていた植物標本が頌栄短大の生物の先生を通して一部が兵庫県立人と自然の博物館に収められました。このほど兵庫県植物誌研究会の方が博物館に収められている植生先生の標本に注目されまとめられたものです。1938年～1939年頃一麦保育園周辺で採収された植物のなかには、現在では確認できない希少種となった植物もあるようです。また植物分布の変化は、気候や海岸線・地形の変化を推測することにもつながり、歴史の一部をひもとく材料にも活用できるそうです。植生先生は一麦保育園の子どもたちとともに、周辺の豊かな自然に触れながら過ごしてきたことでしょう。昨今自然が少なくなってきた中でも園庭で子どもたちが草木や虫に興味を持つ姿は、当時の子どもたちと同じではないでしょうか。そうした自然から感じる不思議さ、驚きや感動を将来の自ら学ぶ力につなげてくれることを願います。

近年、幼小期から大学までの教育プログラムには「幼保小の架け橋プログラム」「STEAM教育」「文理融合教育」などと名付けられたものがあります。そしてその基礎になるのが幼小期の「遊び」であることが改めて見直されています。子どもたちの多様な遊びから生み出される興味・関心が自ら学び・育つ力へとつながるよう、サポートしていきたいものです。

11月3日、少し冷たい風（木枯らし1号）も吹きましたが、秋のよい天気にも恵まれ一麦バザーが開催されました。在園児と保護者、卒園児と保護者、近隣住民の方々、現職員とOG職員、吹奏楽のポコアポコの皆さんなど、多くの来場者があり、賑やかな交流の場となり、子どもたちが笑顔で楽しそうに過ごす時となったことをうれしく思います。保護者の皆様には子どもたちと共に参加、ご協力いただきましたことに感謝申し上げます。

神さまがつくられたこの地球 太陽も空気も山も川も

神さまがつくられたものすべて 大切にします いつまでも【こどもさんびか112番より】

< 今月のお知らせとお願い >

◆ 行事予定

- ・ 3日(月) 一麦バザー
- ・ 5日(水) ももぐみ遠足
- ・ 6日(木) 児童交流大会
- ・ 7日(金) ぶどうぐみ遠足  
耳鼻科検診14:00~
- ・ 11日(火) 甲山遠足(予備日14日)
- ・ 17日(月) 宇田先生(育児コンサルタント)来園
- ・ 18日(火) 収穫感謝祭
- ・ 19日(水) 豚汁パーティー
- ・ 20日(木) 乳児検診(15:45~)
- ・ 28日(金) お誕生日会

- ※ 12月の行事予告 … 8日(月) ページェント写真撮影  
19日(金) 20日(土) クリスマス礼拝  
24日(水) クリスマス祝会  
25日(木) 年末年始希望保育(~1/7)  
28日(日) ~1/4(日) 休園

※ 延期になっていました移動動物園ですが2/6(金)に決まりました。

◆ その他

1. クリスチャン達が、信仰の自由を求めてメイフラワー号に乗り、アメリカ大陸に渡りました。大変な苦勞をしながら、又アメリカ原住民の助けもあって、やっと翌年の秋、収穫を迎えることができました。彼らはまず神様に収穫を感謝し、祈りを捧げたのでした。後年、この神様への感謝を忘れないために、この出来事を記念し、毎年お祝いすることにしました。日本の教会でも11月の第4日曜日を収穫感謝日として、礼拝を守るようになりました。  
18日(火) 当日ご家庭から豚汁で使用する野菜・その日のおやつでいただく果物を何か一品お持ちください。